

先だって、国土交通省淀川工事事務所が、一昨年の名古屋の西側で起きた堤防の決壊の雨量を引き合いに出して、こうなりますよ。と言うデータを市町村に配布したそうですが、そのデータ算出の際に、どんなことをしたかは載っていませんでした。

- 1、地形の模型でピーカーで上から落としたのか？
- 2、コンピューターでシミュレーションしたのか？
- 3、堤防に行って、バケツで水を落としたのか？
- 4、地図を見て、机上で計算したのか？

何か、工事関係者に促されて、堤防は、改修工事しなければいけませんよ。堤防は高くしなければいけませんよ。ということ力を説いていましたね。「どう工事するか？」の論議も出来ていない状態で、国土交通省の発表は、いただけません。「工事させてくれ〜。」「おれは、金貰っているんだ〜。」としか聞こえません。当然、市町村にも財政負担を言うに決まっている工事は、赤字財政の市町村に更なる赤字を言うわけですね。200兆という全国の市町村の赤字は、どう返すのでしょうかね。工事を否定しませんが、「どういう方法で算出したデータなのか？」「どう工事するか？」「堤防は決壊するのか？」などの論議無しにやはり工事は行われるのでしょうかね。

ダムがそうであったように、原発がそうであったように勿論堤防の工事もそうですが多分十分な議論無しに工事はするでしょう。問題が出たらそれから議論するという国の態度は小泉首相になっても依然変わりませんし、多数決でやってしまうのでしょうかね。国会と一緒だ。自分の思いどおりに行かなかつたら、多数決！議論をしないで、やる場所は、市町村も一緒ですけどね。その自然を預かっているという自負が無いですし、どうなっているのでしょうかね。工事関係者と政治の汚職が騒がれていますが、全然改善し様と言う姿勢が感じられません。長野県に至っては、県政会が集団ヒステリーになって、知事が選挙をしようとしています。お金を貰っているからなあ。県政会の議員さんは・・・どうしてもダムを作りたいのでしょうかね。同じことを、この淀川水系で行われてはいけません。そんな気持ちにさせる国土交通省淀川工事事務所の発表でした。